

千葉県野田市（旧関宿町）の力石

高島慎助・石田年子

はじめに

力石とは、労働を人力に頼らざるを得なかった時代に労働者の間に発生し、力くらべや体力を養うのを目的とした石を云う。すなわち力石を用いた「力持ち」は、一人前の男としての通過儀礼、鍛錬および娯楽として用いられていた。しかしながら昭和初期まで全国で使用されていた力石は労働の機械化や娯楽の多様化で、その役割を終えた。

これまで高島は全国各地の「力石」を報告してきた。現在、千葉県全域の力石調査を行っており、これまで安房郡における力石百十四個を報告した。今回は、高島・石田の調査により野田市のうち、平成十五年六月六日に合併される以前の旧関宿町における力石六十一個を報告する。

『調査結果』「教示者」「生年」、「刻字」、数値は最長部。

千葉県野田市（旧関宿町）の「力石」

- 〔1〕 稻荷神社・台町納谷 写真1
- ①「奉納 三十五メ目 当河岸筏屋左吉」58×34×20余cm ②「さし石 六十□□ 南茅場丁 香取春吉 小網丁上吉」50×36×20余cm ③「春駒 石 南茅場丁 六十□□ 香取春 明治四〇□□月廿日」58×35×20余cm ④66×21×20余cm
- 〔2〕 不動堂・台町2100 写真2
- ①57×41×27cm ②63×37×30cm ③63×39×30cm ④58×38×30cm
- 〔3〕 白山神社・台町 写真3
- ①55×36×27cm ②49×30×19cm
- 〔4〕 白山神社・西町 写真4
- ①47×32×22cm ②54×32×13余cm
- 〔5〕 大日堂・江戸町 写真5
- ①「納八十メ余 嶋栄 崔半」70×30×33cm
- 〔6〕 八幡神社・江戸町「林保「大10」」写真6
- ①「三十三メ目」48余×41×29cm
- 〔7〕 水神社・上谷中 写真7
- ①「三十三メ目」60×33×29cm
- 〔8〕 大龍権現・下谷中 写真8
- ①「桢中」50×42×26cm
- 〔9〕 香取神社・元町 写真9
- ①「浅倉 宗五郎 弥七 七五郎」80×43×26cm ②62×40×27cm ③45×30×24cm ④57×35×25cm
- 〔10〕 地藏堂・内町20 写真10
- ①「大久保」53×36×16余cm
- 〔11〕 西高野会館・西高野 写真11
- ①「奉納石」五十□メ目 虎蔵「63×48×27cm ②51×36×27cm
- 〔12〕 香取神社・桐ヶ作久保1570 写真12
- ①「□八メ目」48×45×30cm
- 〔13〕 日枝神社・東宝珠花550「林保「大10」・伊東（8）」写真13
- ①「奉納 同亀吉二十歳」64×50×24cm ②「奉納力石 大願成就 四十八貫目 下総東寶珠花逆井利左エ門 文化十一年二月吉日」（二八一四）65×32×30cm ③「下総海上郡太田村出生 亀吉二十歳 天津屋内 若者」58×36×26cm
- 〔14〕 山王社・東宝珠花437 写真14
- ①「奉納 式拾七メ目 下野内」64×30×24cm

- [15] 香取神社・平井206 写真15
 ①「奉納力石七斗五升目 平井村同行五人 正徳四年天」(二七一四) 66×42×25 cm
- [16] 香取神社・岡田148 写真16
 ①「三拾八貫目」 75×35×20余 cm ② 63×30×24 cm
- [17] 福寿院・岡田 写真17
 ① 50×43×23 cm ② 56×46×25 cm ③ 48×39×22 cm ④ 54×44×19 cm
- [18] 白山神社・木間ヶ瀬飯塚 写真18
 ①「奉納 二十五貫目」 55×29×19 cm ② 63×38×27 cm ③ 60×34×25 cm
- [19] 水神堂・木間ヶ瀬飯塚 写真19
 ①「□□□目」 57×40×20 cm ② 58×30×5余 cm
- [20] 水神堂・木間ヶ瀬上納谷8546 写真20
 ①「四拾五メ目余」 65×36×25 cm ② 61×35×17余 cm ③ 54×25余×23 cm
- [21] 神明社・木間ヶ瀬内野堤根2591「林保」[大10] 写真21
 ①「奉納」 64×37×26 cm ② 66×43×30 cm
- [22] 天満宮・木間ヶ瀬松ノ木
 ①「奉納力石 三拾メ目 寛延三年十月」(一七五〇) 65×40×23 cm 写真22
 ②「奉納力石 廿八メ目 松ノ木 飯塚氏」 62×33×25 cm 写真23
- [23] 鹿島神社・木間ヶ瀬松ノ木1544 写真24
 ① 52×35×20 cm
- [24] 宝蔵院・木間ヶ瀬砂南 写真25
 ①「奉納 五十五貫目 若者」 天保十年」(一八三九) 52余×33×30 cm
- [25] 須賀神社・木間ヶ瀬羽貫670 写真26
 ① 55×36×24余 cm
- [26] 香取神社・木間ヶ瀬下根 写真27
 ①「奉納 香取大明神 文化八年四月吉日 木間ヶ瀬下根村」(一八一二) 53×23×27 cm
- [27] 須賀神社・木間ヶ瀬新宿5057 写真28
 ①「奉納力石 五十貫目 安政三年正月吉日」(一八五六) 62×31×33 cm

- ② 42×38×27 cm ③ 45×42×23 cm ④ 45×40×18 cm ⑤ 46×37×24 cm
 ⑥ 46×43×23 cm ⑦ 53×25×26 cm ⑧ 63×39×33 cm ⑨ 30×32×24 cm
- [28] 三嶋神社・次木350 写真29
 ① 55×44×22

考 察

「全国的な「力石」の概要」

競技方法

石担ぎ、石ざし、片手止め、曲持ち、振りさし、石回し、襷掛け、石運び、足ざし、地切りなど使用した「力石」の大きさによって、色々な方法で「力持ち」が行われていた。地域によっては「力縄」などの補助具を使用していた所もある。

形

ほとんどが楕円形で表面に凹凸が少ない自然石である。しかし地域によっては、手の掛かる所を作ったり、縄を掛ける溝を刻んだものも見られる。

重量

二十貫(七十五kg)前後が多いが、五十貫(一八七・五kg)以上のものもある。これは十六貫(六十kg)の米俵一俵を基準として「力持ち」が行われていたためであろう。

切付(刻字)

「力石」には、重量、名前、地名および年代などを刻んだ「刻字」のあるものがある。

野田市(旧関宿町)の力石

旧関宿町は、その北端で利根川が江戸川と分流し、町の東西を大河が流れる町である。舟運が栄えた幕藩時代には、奥州の米などの物資を江戸に運ぶ際、房総半島を回って江戸に入るというルートは嫌われ、銚子より利根川を廻り、関宿の関所を通過して江戸川に入り、ダイレクトに江戸市内に達するというルートが使用された。その名残が力石の銘文にも現れ、「1」台町納谷

の稲荷神社には、江戸深川の南茅場町や小網町の地名の刻まれた力石が残されている。また〔13〕東宝珠花の日枝神社には、海上郡大田村（銚子市の近隣）の若い船頭と思われる天津屋・亀吉の名が刻まれている。同神社では若者達の「力自慢大会」や草相撲が盛んに行われていた様で、明治の始めの頃に現庄和町の安五郎が四十六貫目の力石を持ち上げ、石を担いだまま江戸川の渡し船に乗り、五、六キロ離れた自宅近くの神社まで持つて行ったという話が残されている。

「力自慢くらべ」と云えば、かつて中戸地区では、麦の取り入れ時期の七月二十八日に「麦初五穀豊穰感謝祭」が常敬寺で開かれていた。新麦で造った酒が振る舞われ、奉納された麦を六斗俵、八斗俵、一石俵に詰め、力自慢の人々が力を競ったという^⑤。今回の調査では、常敬寺には力石を確認することは出来なかった。旧関宿町の力石は、江戸川、利根川の舟運に関わるものが多いと思われる。

旧関宿町における力石は、六十個中、二十六個に「年代、重量、人名、地名」などの刻字が認められた（表1）。

〔年代刻字〕

香取神社（平井）の「正徳四年（一七一四）」が最も古い年代刻字であった。

〔重量刻字〕

大日堂（江戸町）の「八十メ余」が最も重い「重量刻字」であった。

〔人名刻字〕

「篠屋左吉」、「香取春吉（二個）」、「上吉」、「宗五郎」、「弥七」、「七五郎」、

「虎蔵」、「亀吉（二個）」、「逆井利左エ門」、「飯塚氏」が認められた。

〔地名刻字〕

「南茅場丁」、「小網丁」、「埜中」、「大久保」、「下総東寶珠花」、「下総海上郡大田村」、「下野内」、「平井村」、「松ノ木」「木間ヶ瀬下根村」があった。

保存処置としては、数カ所に簡易保存されたものもあるが力石としての説明はない。他の力石は、全て放置されたままである。これら放置された「力石」は、その存在も意味も忘れ去られ紛失のおそれもある。早急な保存処置を期待したい。なお「刻字」の有無に関わらず、多くの人々が汗し、親しんだ「力石」に変わりはない。大切に残して欲しいものである。

全国の力石に対する動向

現在でも力石を用いた「力持ち」は、復活したものも含め全国一〇ヶ所ほどで行われている。

また力石が有形民俗文化財として指定保護されているのは、全国で約三〇〇個ほどであり、まだまだ見捨てられているものが多い。兵庫県姫路市では、同市大津区天満（神明神社）の「力石による力持ち」を無形文化財に指定（平成十四年八月二十八日）した。

ここ数年、各地で力石が、庶民および郷土の文化財として認められ、続々と保存処置が行われている。これら各地における力石保存の動きは、住民の力石に対する文化財としての理解が深く、先人の文化遺産を大切にしたいという願いが実を結んだものである。

なお力石情報の得られなかった地域においても、まだまだ多くの力石が眠っていることが推測される。

体育史学のおよび民俗学的な文化遺産である「力石」について、さらに啓発と保存が望まれる。

謝 辞

本研究は、平成十五年度文部科学省科学研究費補助金の一部による。なお調査に際して関係教育委員会の協力を得た。また各自自治体の文化財保護審議委員、老人会役員および自治会長を初め、多くの人々の談話なども参考にしました。ここに関係諸氏に深謝の意を表します。

註

- (1) 高島慎助『三重の力石』三重大学出版会、一九九八年。
- (2) 高島慎助『播磨の力石』岩田書院、二〇〇一年。
- (3) 高島慎助『京都・滋賀の力石』水九出版、二〇〇一年。
- (4) 高島慎助『大阪の力石』岩田書院、二〇〇二年。
- (5) 高島慎助『東京の力石』岩田書院、二〇〇三年。

(6) 高島慎助『奈良・和歌山の力石』岩田書院、二〇〇三年。
 (7) 高島慎助『千葉県安房郡の力石』『東邦考古』第二七号、二二一―二三八頁、二〇〇三年。

(8) 金子勝一、「力石くらべ」は若者の人気の的』『せきやど昔話』私家本、三三頁、一九八九年。

(9) 中沢富寿雄「麦初五穀豊穰感謝会」『関宿町のお祭り』（関宿町文化財調査報告書第3集）、関宿町教育委員会、五三頁、一九八五年。

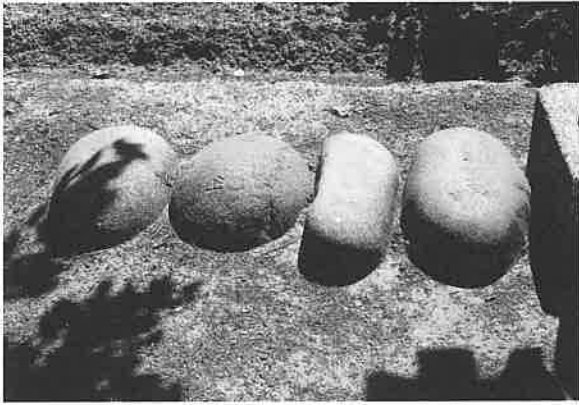


写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真 6



写真 7



写真 8

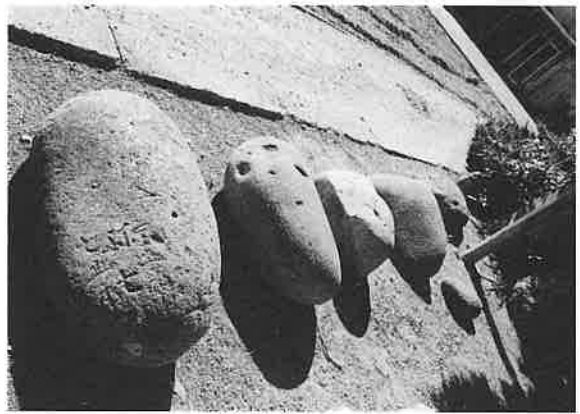


写真 9



写真 10



写真 11



写真 12



写真 13



写真 14

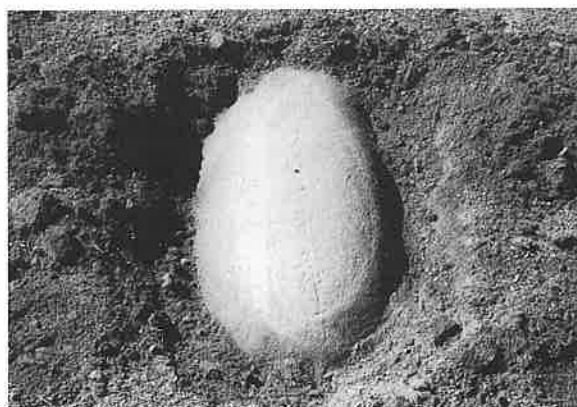


写真 15



写真 16



写真 17

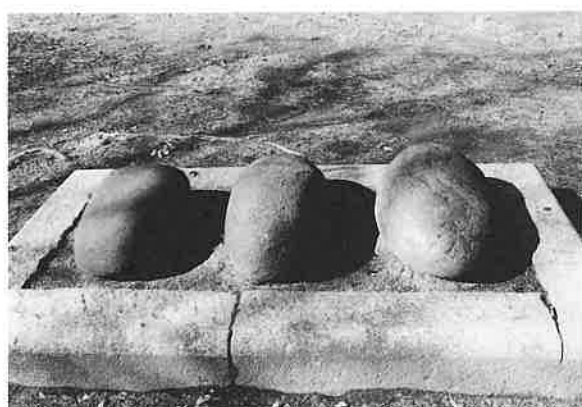


写真 18



写真 19



写真 20



写真 21



写真 22



写真 23

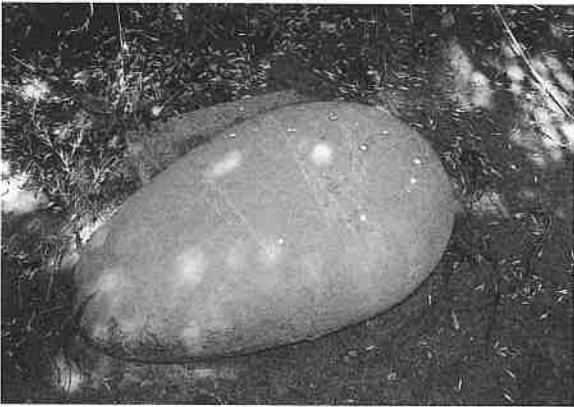


写真 24



写真 25



写真 26



写真 27



写真 28



写真 29

表1・野田市(旧関宿町)の力石

所在地	個数	刻字
[1] 稻荷神社・台町納谷	4	①奉納 三十五メ目 当河岸筏屋左吉②さし石 六十□□ 南茅場丁 香取春吉 小網丁上吉③春駒石 南茅場丁 六十□□ 香取春 明治四〇□□月廿日
[2] 不動堂・台町	4	
[3] 白山神社・台町	2	
[4] 白山神社・西町	2	
[5] 大日堂・江戸町	1	①奉納 八十メ余 嶋栄 雀半
[6] 八幡神社・江戸町	1	①三十三メ目
[7] 水神社・上谷中	1	①三十三メ目
[8] 大龍権現・下谷中	1	①埜中
[9] 香取神社・元町	4	①浅倉 宗五郎 弥七 七五郎
[10] 地藏堂・内町	1	①大久保
[11] 西高野会館・西高野	2	①奉納 石□五十□メ目 虎蔵
[12] 香取神社・桐ヶ作久保	1	①八メ目
[13] 日枝神社・東宝珠花	3	①奉納 同亀吉二十歳②奉納力石 大願成就 四十八貫目 下総東寶珠 花 逆井 利左エ門 文化十一年二月吉日③下総海上郡太田村出生 亀吉 二十歳 天津屋内 若者
[14] 山王社・東宝珠花	1	①奉納 式拾七メ目 下野内
[15] 香取神社・平井	1	①奉納力石七斗五升目 平井村同行五人 正徳四年天
[16] 香取神社・岡田	2	①三拾八貫目
[17] 福寿院・岡田	4	
[18] 白山神社・木間ヶ瀬飯塚	3	①奉納 二十五貫目 ⑤
[19] 水神堂・木間ヶ瀬飯塚	2	①□□□目
[20] 水神堂・木間ヶ瀬上納谷	3	①四拾五メ目余
[21] 神明社・木間ヶ瀬内野堤根	2	①奉納
[22] 天満宮・木間ヶ瀬松ノ木	2	①奉納力石 三拾メ目 寛延二年十月②奉納力石 廿八メ目 松ノ木 飯塚氏
[23] 鹿島神社・木間ヶ瀬松ノ木	1	①奉納 五十五貫目 若者□ 天保十年
[24] 宝蔵院・木間ヶ瀬砂南	1	
[25] 須賀神社・木間ヶ瀬羽貫	1	
[26] 香取神社・木間ヶ瀬下根	1	①奉納 香取大明神 文化八年四月吉日 木間ヶ瀬下根村
[27] 須賀神社・木間ヶ瀬新宿	9	①奉納力石 五十貫目 安政三年正月吉日
[28] 三島神社・次木	1	
総計	61	

「力石」についての情報(現存、紛失、保存
処置)などがありましたら左記まで連絡下さ
い。

〒五二一八五二二

三重県四日市市萱生町二二〇〇

四日市大学健康科学研究室・高島慎助

TEL 〇五九三―六五―六五八八

FAX 〇五九三―六五―六六三〇

(力石記載) <http://www.za.ziv.ne.jp/takashim>

・文責

(たかしま・しんすけ 四日市大学教授)

・踏査及び写真撮影

(いしだ・としこ)

当館客員研究員